町内小学校初の太陽光パネル設置
虻小環境学習に活用

平成21年４月に国が提唱した「スクール・ニューディール構想」に基づき、虻田小学校（小沼和好校長）に太陽光パネルが設置され、９月30日に、同校で教育委員会からの説明会がありました。同パネルの１年間の総発電量は約9,900㌔ワットで、約3.1㌧のＣＯ２削減効果が見込まれています。

当日は、総合的な学習で環境について学んでいる５年生が参加し、生徒代表して三島穂乃香さんが「太陽光パネルについて調べて、環境問題について学んでいきたい」と感謝の言葉を述べました。

太陽光パネルの話を聞く５年生

地域社会への貢献
虻田中生徒ら前浜の清掃行う

10月16日虻田中学校の生徒らが、前浜の海岸清掃ボランティア活動を行いました。地域の一員としての意識を高め、思いやりの心を育てようと同中が毎年行っている行事で、野球部、サッカー部、バドミントン部、陸上部、パソコン部の生徒ら約70人が参加して、海浜清掃に汗を流しました。

海浜清掃に汗を流した虻田中の生徒ら

生徒らは、赤川から豊浦方面へ約１㌔の範囲を１時間ほどかけて清掃し、空きカン、空きビンや魚網などのゴミを拾い集めました。

植樹後記念撮影する参加者

10月２日町と(社)北海道地山林道協会が主催して、泉の桜公園で、洞爺湖町民植樹祭が行われ、約70人が参加して、防災意識や森林整備意欲を高めました。

今年の植樹祭は、同協会の有珠山噴火復旧対策30周年（197年噴火）を記念した「防災の森づくり」と合わせて開かれ、エゾヤマザクラ、ヤエザクラ、チシマザクラの３種類約200本を植樹しました。

町民植樹祭開く
桜３種２００本植樹

温泉誕生100年記念でタイムカプセル埋設
地場産品の料理を堪能

とうやの日（10・８）の10月８日、洞爺湖温泉誕生100年記念事業委員会が主催して、タイムカプセルの埋設と地場産品を使った料理の試食会が行われました。

今年誕生した赤ちゃんや幼稚園児ら約140人の手紙や写真などが、温泉街西側の洞爺湖温泉誕生の地に、開封される10年後の夢見て埋設されました。

引き続き、「食」本物プロジェクトによる試食会が、パークホテル天翔で、町民約80人を招いて開かれ、褐毛（あかげ）和牛のしゃぶしゃぶやマツカワの造りなどの料理を試食し、会場内はおいしい笑顔であふれていました。

タイムカプセルを埋める真屋町長ら